

心理支援に関する理論と実践Ⅱ

[講義・演習] 第1学年 後期 必修 2単位

《履修上の留意事項》生田倫子担当回、田中恒彦担当回は集中講義として実施する。

今井担当分は変則開講の講義となる。

《担当者名》○今井 常晶 生田 倫子（非常勤講師） 田中恒彦（非常勤講師）

【概 要】

公認心理師の業務に必要な心理支援の代表的な方法である、家族療法、精神分析の理論と実際を理解する。

【学修目標】

- ① 公認心理師の業務に必要な認知行動療法の理論と実際を理解する。
- ② 公認心理師の業務に必要な家族療法の理論と実際を理解する。
- ③ 公認心理師の業務に必要な精神分析の理論と実際を理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	家族療法/ ブリーフセラピーの実際②	産業組織コンサルテーションへの視座。 使用する技法の組み合わせについて。	生田 倫子
2	家族療法/ ブリーフセラピーの実際③	産業組織コンサルテーションの実際。 面接場面と介入。	生田 倫子
3	家族療法/ ブリーフセラピーの実際④	組織臨床への視座。 使用する技法の組み合わせについて。	生田 倫子
4	家族療法/ ブリーフセラピーの実際⑤	組織臨床への視座。 システミックな見立てと介入。	生田 倫子
5	家族療法/ ブリーフセラピーのまとめ	総合ディスカッション	生田 倫子
6	各論①気分障害に対するCBT	うつ病・双極症などの気分障害に対するCBTの理論と実践を学ぶ。	田中恒彦
7	各論②不安症に対するCBT	パニック症、社交不安、特定恐怖などの不安症に対するCBTの理論と実践を学ぶ。	田中恒彦
8	各論③強迫症に対するCBT	強迫症・衝動制御の障害に対するCBTの理論と実践を学ぶ。	田中恒彦
9	各論④慢性身体疾患に対するCBT	めまい、耳鳴り、疼痛などの慢性身体疾患に対するCBTの理論と実践を学ぶ。	田中恒彦
10	認知行動療法についてのまとめ	行動的QOL, 認知行動療法が目指すものについて考える。	田中恒彦
11	中立的治療者としての感受性訓練	精神分析的な精神療法における教育分析の役割について理解する。	今井 常晶
12	精神分析的な精神療法の実際①	症例を通して精神分析的な精神療法を理解する（発達相談場面における母親支援の事例から）。	今井 常晶
13	精神分析的な精神療法の実際②	症例を通して精神分析的な精神療法を理解する（母親支援の事例に対するコメントから）。	今井 常晶
14	精神分析的な精神療法の実際③	症例を通して精神分析的な精神療法を理解する（対象喪失がテーマの事例から）。	今井 常晶
15	精神分析的な精神療法の実際④	症例を通して精神分析的な精神療法を理解する（自己に向きあうことが困難な事例から）。	今井 常晶

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

生田、田中、今井の3教員よりレポートが出題される。（100%）

【教科書】

別途指示する。

【参考書】

別途指示する。

【学修の準備】

<授業時間外学習>

- ①予習（60～90分）：各回の関連キーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。
- ②復習（30分～60分）：学習内容を自分の言葉でまとめる。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、臨床現場において人の尊厳を重んじた科学者・実践家として社会に貢献することが期待できる能力を修得するという臨床心理学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。